

ごみしゅうしゅう車しゃの しゅうたくくん



おらーい、おらーい、すどっぴ
「オラーイ、オラーイ、ストップ」

ぶーん、ぶーん、ぶーん。


きょうも、ごみしゅうしゅう車のしゅうたくんは、
しょくいんのささきさん、ゆうきくんといっしょに
まちをきれいにしています。



「しゅうたくん、きょうも ぜっこうちょうだね」
「なんてったって きょうは おてんきがいいからね。
さあ、きょうも ^{どんどん}ドンドンはたらくぞ」
「たのもしいな、しゅうたくん！」
「ささきさん、あそこのごみを
あつめにいこうよ」



ふたりのいきは ^{ぴったり}ピッタリ。
ごみが つぎつぎと
しゅうたくんの ^{ぽけっと}ポケットのなかにはいり、
まちは みるみる きれいになっていきます。



「やっぱり ごみのない
きれいなまちは きもちいいね。
しゅうたくん、いつもありがとう」
うんてんしゅの ゆうきくんが
いいました。

「ぼくひとりの ちからだけでは できないよ。
ささきさんが いっしょうけんめい はして
ごみを ぼくの ^{ほけっと} ポケットに 入れて、
ゆうきくんが あんぜんうんで
ぼくを うごかしてくれるからさ。
3にんの ちからを あわせなきゃ できないよ」
しゅうたくんが てれくさそうに わらっていいました。
ぶーん、ぶーん、ぶーん・・・
まちのごみが きれいに しゅうしゅうされたとき、
そらは ゆうやけいろに なっていました。

「しゅうたくん、おつかれー」

「ささきさん、ゆうきくん、きょうもありがとう」

しゅうたくんは、ふたりに^{シャワー}シャワーをかけてもらう

このじかんがいちにちのなかでいちばんすきでした。



しゅうたくんは、そのあと
からだのすみずみまで
てんけんしてもらい、
あしたのためにしゃこで
ゆっくりとやすむのでした。



ことりたちがしゅうたくんのまわりで
さえずりはじめました。
ちゅん、ちゅん。ちゅん、ちゅん。
「しゅうたくん おはよう！きぶんはどう？」
「げっこうちょうだよ！さあ、はたらくぞー」



しゅうたくんがおきたとき、
ささきさんもゆうきくんも
さわやかにしゅっकिनしてきました。
「しゅうたくん、きょうもたのむよ」



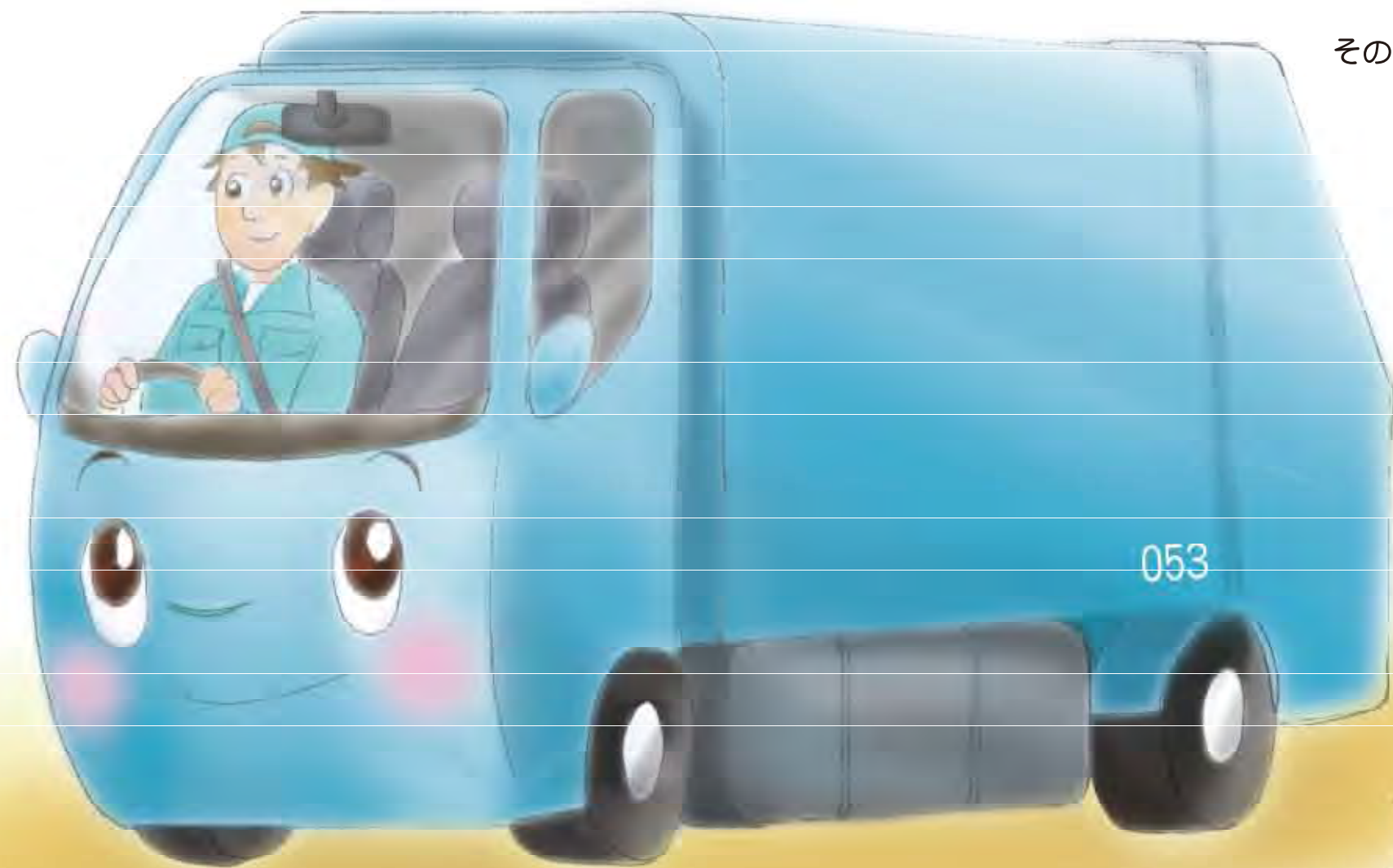
しゅうたくんは、
ささきさんにからだをていねいに
てんけんしてもらい、

ゆうきくんに
あさごはんのねんりょうを
タンクいっぱいに入れてもらいました。
「いっぱいになったよ。
きょうもたいちょういいね」



「さあ、しゅっぱつするぞ」
しゅうたくんはげんきもりもり。
「エンジンぜんかい。
さあ、きょうはどこへいくのかな。
たのしみだな、わくわく」

「しゅうたくん、あおいごみぶくろはなんのごみかわかるかい？」
ささきさんがちょっといたずらっぽくききました。
「そんなことしてるよ！もえるごみさ」
しゅうたくんもむきになってこたえます。



ゆうきくんはそんなかいわをきくのがとてもたのしみでした。
しゅうたくんがとあったみちはすっかりきれいになってすがすがしくなります。
「しゅうたくん、ありがとう」
まちのひとたちはだいすきなしゅうたくんにこえをかけてくれます。

そのときです！



ぷいっ・ぷいっ・ぷいっ・ぷいっ

とつぜんしゅうたくんの^{ほけっと}ポケットになにかつまったようなおとがします。

ぷいっ・ぷいっ・ぷいっ・ぷいっ

しゅうたくんのようすがへんです。

「ほくもうだめだ、くるしいよ。

うごけないよう」



いったいなにがおこったのでしょうか？

しゅうたくんはふあんでおねがはりさけそうでした。

ゆうきくんがさけびました。

「たいへんだ、はやくみてもらわなければ！」

しゅうたくんはふたりにはげまされながら、

なんとかせいそうこうじょうにかえりました。

